

# 早稲田の杜



～2018年度の講座より

## 正岡子規の世界

越後 敬子先生



### 目次

02 「知の開拓」

講師インタビュー 原 章二先生  
受講生インタビュー 金子 圭太さん

04

サタデーレクチャー  
～早稲田の杜の教養シリーズ～

06

早稲田の杜を歩く  
ワセモリギャラリー

07

単位・修了・紺碧賞のご案内  
修了生・紺碧賞受賞者のメッセージ

08

稲修会  
インフォメーション



EXT

早稲田大学  
エクステンションセンター

# 哲学は芸術と同じ。人生を豊かにするものです

哲学と聞くと崇高な学問というイメージを抱くかもしれません。しかし「哲学者は天才ではありません。もしかして『分からず屋』がなるのかもしれない」と僕は思うんです」と原先生。「哲学のあゆみ—思想の巨匠たち—」(秋期)で教えているのは、カントやヘンリ・ベルクソンです。

ゲルといった古典哲学からキルケゴー、ニーチェまで、19～20世紀を代表する哲学者たちの思想。「ソクラテスやプラトンなど、哲学者は普通の人が考えていることが理解できず、自分の考えが否定され、なぜなのか悩んでいるうちに哲学者になつたんです。哲学は数学のように正解があるわけでもな

く、全てがファジー。だから、学ぶ方も気楽に構えていいんです。そう聞くと哲学に対するハードルが一気に下がります。

原先生は政治経済学部に入学後、文学部仏文科に転部。研究の中心はフランスの哲学者アンリ・ベルクソンです。

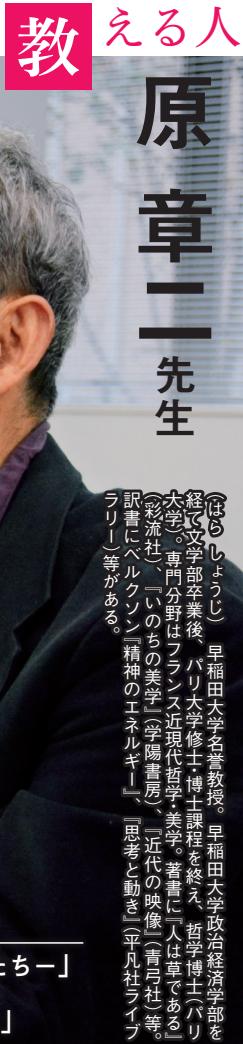
「だいたい哲学者は難解な言葉で哲学を論じますが、ベルグソンの表現は分かりやすい。また彼は哲学者でありながら、『イメージ』について論じ、後の映像文化論に大きな影響を与えた存在でもあります。自身も映画好きという原先生。哲学とは單なる思想にとどまらず、映像、絵画、文学の

発展に寄与したとは興味深い話です。

そんな哲学の講義を受けるのはどんな人なのでしょう? 「意外と理系の方がが多い印象です。若い頃に興味はあったものの正反対の仕事に就いて、定年退職したので勉強してみよう! といった感じでしょうか。男性が多く、40～50歳代から80歳代までいらっしゃいます。自分より年上で人生経験も知識も豊富な方が多いので、教え方の切り口や手法は常に模索しています」。冬期はフロイトやユングなど哲学者以外にもフィールドを広げ、同じ問題意識を別の思想から考える講義を実施。また今夏以降は、「愛」「労

働」「自由」「時間」などテーマ別に哲学者の考え方を紹介する内容も構想しているとか。「そうすればもっと受講生同士で話ができる、能動的な講義ができるかもしれません」。

さまざまな学問がある中で、哲学を学ぶ意味とはどこにあるのでしょうか? 「哲学がなくなつても世界は滅びません(笑)。ですが音楽のようなものだと思います。なくなると何か大事なものが欠けたように感じる。受講生には、単に知識をつけるだけではなく、常識を疑い、自分の生活を見直し、人生を豊かにするためのきっかけをつかんでほしいと思います」。



# 開拓 ちのかいたく

## 原先生の学びの提言

### 著・訳書紹介

『思考と動き』(平凡社ライブラー)  
ベルクソン自身が書いたベルクソン哲学の方法論指南。持続と直観というベルクソン哲学の根本を、彼以前の哲学との異同にも触れつつ解説。『精神のエネルギー』と対をなす絶好の入門書。

『いのちの美学』(学陽書房)  
「いのち」「生きていくこと」について、哲学、文学、映像……と、さまざまなジャンルから考察。「ただ存在して感じていること」はそれだけで美しい。「生」の正しさをやさしい言葉で綴る。



# 何かに役立つから、ではなく自分が楽しいから学んでいます

なんと金子さんは17歳。早稲田大学エクステンションセンターの中で最も若い会員です。お母様の勧めで2018年4月から通い始めたそうですが、受けているのは「和食を知らないといけないでしよう」を除き、全て哲学。なぜその若さで?

「たまたま図書館で借りた『自由とは何か』という本を読んだのがきっかけです。最初は難しかったけれど、読むうちに理解できるようになりました、もつと知りたくなりました。原先生の講義は「哲学のあゆみ—思想の巨匠たちー」が初めてですが、それぞれ違

う先生の講義を受講しているからこそ得られることが多いといいます。「教える人によって見解が全く違うのが他の学問にはあまりないです。例えば原先生はハイデガーについて批判的だけれど、他のハイデガー研究者の先生は正反対のことを言つていたり。でも僕は納得できることは取り入れて、理解できなければ放つておきます。自分が好きな部分だけ吸収すれば良いかな」と。興味がある哲学者については本を読んでさらに学びを深めるそう。ちなみに今読んでいるのは原先生に勧められたキルケゴーの『現代の批判』だそうです。

自宅に帰ると、講義で学んだことを両親に話すといいます。頭の整理をすることで、初めて自分の理解できなかつたことが理解できたりするのだとか。「母に『何言つてるの?』って言われることもありますが(笑)」これまでに学んだ哲学を生活の中で役立てたりするのでしょうか? その問いに、金子さんはきつぱりと「何かに生かす、というのだと思つていません」と答えました。「趣味の一つだと考えています。哲学って、やめられなくなるんです」。

原先生の講義は「哲学のあゆみ—思想の巨匠たちー」が初めてですが、それぞれ違うように、金子さんはきつぱりと「何かに生かす、というのだと思つていません」と答えました。「趣味の一つだと考えています。そもそも笑き詰めれば人生 자체も趣味で成り立っているというか、人間的衝動が先にあります」。

若さを感じさせない達観した回答は、さすが哲学講座の受講生。これからも哲学にとどまらず、心理学や経済学など気になる講座をどんどん受けようと考へているそう。飽くなき探求心に満ちた目が、キラキラと輝いていました。

# 矢野の知



## 2018年度 受講講座

- 「西洋哲学の基礎を学ぶ」
- 「ハイデガー哲学入門」
- 「ニーチェ『ツアラトウストラ』を読み解く」
- 「哲学のあゆみ—思想の巨匠たちー」
- 「ハイデガー『存在と時間』を読む」
- 「ヤスパー斯『哲学的信仰』を読み解く」
- 「和食を知らないといけないでしよう」

## 学ぶ人



原先生の著書を見ながら歓談する金子さん。

# 早稲田の杜を歩く

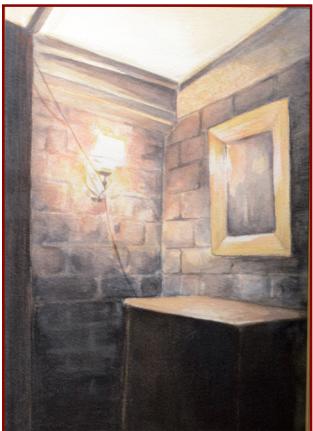


早稲田大学歴史館  
編

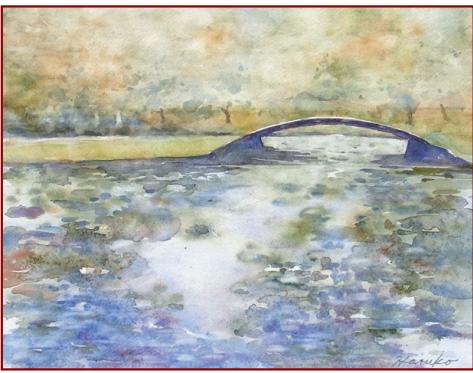
早稲田キャンパス1号館1階に開館した早稲田大学歴史館。常設展示と企画展示ルームのほか、映像プログラムを視聴できるシアタールームや早稲田の歴史等を調べることができます。早稲田大学の過去・現在・未来をお楽しみください。



▲館内はカフェも併設されています



「タンゴ喫茶の片隅」  
暮石 康子さん(2000年入会)



「睡蓮(小石川後楽園)」  
山口 治子さん(2008年入会)



受講生の作品をご紹介

今回は早稲田校「風景の詩Ⅱ」(南口清一先生)、中野校「西洋書道 カリグラフィー教室」(阿部久代先生)の講座を受講された方々の作品を取り上げました。



「クリスマスに」  
受講者10名と講師の共同制作



「椅子にかける少女」  
大杉 邦雄さん(2008年入会)



「風景の詩Ⅱ」(早稲田校)

单  
位

单位

オープンカレッジの講座には独自の単位が設定されています。(90分授業×5回=7・5時間で1単位)講座では、出席カードにより出欠を確認します。全授業回数の2/3以上の出席をもって所定の単位取得となります。(ビギナーの方を除く。)

紺碧賞



目指せ！修了生

76単位を取得されるとオープンカレッジ修了となり、次年度

後は終身会員となり、以後の会員更新料が不要となる他、早稲田大学の「推薦校友」に推薦可能となります。また、修了生の親睦組織「稲修会」にもご入会いただけます。

「新しいことへの挑戦を継続」

岡山 宣孝さん(2003年入会)



紹碧賞メッセージ

A portrait of Professor Hidetaka Horie, a middle-aged man with glasses and a suit, speaking. The text to his right describes his academic journey and research interests.

「目指すは紺碧賞！」

紙京子さん(2012年入会)

以前から興味のあつたエクステンションセンターに入会したのは、入学した長男が、頼んだその日にパンフレットを持ち帰つてくれた翌日でした。西洋史を中心そこから派生して建築史、哲学、現代の世界情勢等を受講しています。イギリス(スコットランド)史のM先生の講座は、先生の講義はもちろんのこと、受講生の皆様も学識・教養豊かな方々ばかりで、仲良くしていただき感謝しております。そのなかのお一人がおつしゃつた「講義を受けることで点だつた知識が線になり、線が面になつて行く。」とはその通りで喜びを感じています。早稲田大学で学びたかったのに専攻のピアノ科がなく諦めた若い日。長い時を経て今、若者達と同じキャンパスで学び青春を取り戻しているようです。自ら教鞭をとり最も愛したキャンパスの一角落で、嬉々として学んでいる娘の私を父もどこかで見守つていてほしい。

「新たな出会い」

佐山 隆一さん(2011年入会)





定年を機に、浅学非才の身  
ゆえにより深く学ぶ場所を  
探しておりましたところ、出  
会えたのが早稲田大学オー  
プンカレッジでした。受講した中でも特に「江戸  
東京の風景学」の講座は生まれも育ちも東京の私  
ですら、意外に知らない場所が多く素敵な出会い  
でした。また、朗読の講座を受講するようにな  
ってからは、声も出しやすくなり、かつ、そ  
れまで食事のときに物をよく詰まらせていまし  
たが、見事に改善することができました。講座  
の方々とも親しく交流でき、楽しい時間を過ご  
しています。今まで専門的な仕事をしていたの  
で狭い世界でしたが、講座に通うようになつて  
自分の世界が広がりました。今まで築いてきた  
関係を大切にしながらこれからも継続して学ん  
でいきたいと思っています。

**推薦校友とは**  
早稲田大学の卒業生・教職員校友・推薦校友・早稲田大学名誉博士は「校友」と呼ばれます。推薦校友は、早稲田大学校友として推薦される要件を満たし、早稲田大学の同窓会組織「早稲田大学校友会」に承認された方を指します。「早稲田大学校友会」の正会員となります。

さらに取得単位が150単位となりますと「オープンカレッジ紺碧賞」を授与します。紺碧賞はオープンカレッジの最高峰です！

憧れの紺碧賞

でいきたいと思います

# 「サタデーレクチャ―」 ～早稲田の杜の教養シリーズ～

早稲田大学エクステンションセンターでは、注目の研究者や専門家をお招きし、様々なテーマを取り上げる「サタデーレクチャ―」早稲田の杜の教養シリーズ」を2018年度秋学期より継続して開催することになります。今回は2018年12月に行われた第1回、2019年1月に行われた第2回の講演の模様を抜粋して紹介します。

## アメリカ中間選挙の結果から見る 「トランプ大統領とアメリカ」

アメリカ合衆国の中間選挙は予算や人事などに関わる重要な「中間テスト」

米連邦議会上院予算委員会にて連邦公務員として国家予算編成に携わった経験を持つ中林教授は、冒頭で11月6日に行なわれたアメリカ合衆国の中間選挙(以下、中間選挙)が持つ重要な意味を指摘しました。

「アメリカでは日本と異なり予算も法律の一部であり、上院下院ともに通過しなければ成立しません。政権政党が選挙で上院下院ともに議席を多く獲得できればいいですが、そうでない場合、"Divided government"（分割政府）※となり、政策運営に支障をきたすことがあります」。

※ 日本でいう「ねじれ国会」

そういった意味で米中間選挙は、トランプ大統領にとって重要な中間テスト」と表現し、その主な特徴について、振り返りました。

特筆すべきは、アメリカの中間選挙史上最多の女性候補者数だったこと。セクハラ

問題に声を上げる「#MeToo」運動が巻き起こる中、女性蔑視の発言が目立つトランプ大統領に対抗し、民主党は女性候補者を立てた戦略をとった結果、民主党の女性候補者はうなぎのぼりに人気を得ました。この現象は「現在のアメリカ社会の一部を表わしている」と中林教授は指摘。

さらに、通常は4割前後にとどまる投票率が今回5割に上り、50年ぶりの大快挙といわれるほど高かつたことも注目できると触れました。

### データで見る得票率、支持率

中間選挙の特徴としては、若い世代もシニア世代も投票する人が多かったことが、

高い投票率につながったと中林教授は指摘します。特筆すべきは、若い世代は圧倒的に民主党支持者が多く、45~60歳は共和党支持が半数を占める点。「トランプ大統領はこうしたデータは必ずチェックしているでしょう。若い人の民主党支持率は圧倒的

で、かなり冷や汗をかいたはずです。

今回の出口調査を見ても、非白人の支持者は圧倒的に民主党支持であり、ミレニアル世代(1981~2000年生まれ)はヒスパニックが20%を占めています。人種の関係なしにしても、18歳から29歳の若者は67%が民主党に投票しています。保守的な共和党に危機感が生まれるのは当然で、白人や年配の共和党支援者が投票所に足を運ぶ動機となり得ているそうです。

さらに、2012年と2016年の人種別人口構成(米国国勢調査局、米国商務省のデータをもとに、2015年の人口構成)をみると、中南米系のヒスパニックが増えています(ブルックィングス研究所調べ)。これらのデータは共和党支持層の人口が減少することを示唆していると説明。

「ここまで触れてきた投票率、支持率の傾向についてトランプ大統領が脅威を感じずにはいたとしたら、そして共和党支持者たちの投票率を上げる努力をしなかつたならば、民主党が大勝した可能性もありました。トランプ大統領にとっては逆風だった

感を煽った結果、それに対抗する民主党支持層も危機感を募らせ、最後にはオバマ大統領やバイデン副大統領まで引つ張り出しで演説してもらおうといった抗戦劇があつたのですが、過去にそういう例はほとんどなく、そういう意味でも前代未聞の中間選挙でした。結果的に、歴史的な投票率の高さにつながったと思われます。」

### これからのトランプ政権と政局について

「数々のデータをふまえ、中間選挙を終えた今後について、長期的な視点から見た場合、共和党はトランプ大統領のやり方を続けながら生き残れる術はなく、変化を余儀なくされるでしょう。共和党支持者の投票率が非常に高いという強みは継続するかも

■ 中林 美恵子氏



早稲田大学社会科学院総合学術院教授。大阪大学博士(国際公共政策)、米ワシントン州立大学修士(政治学)。元衆議院議員。経済産業研究所研究員や財務省財政制度等審議会委員など歴任。米国在住14年のうち10年間は米連邦議会上院予算委員会の連邦公務員(共和党)として国家予算編成を担当。跡見学園女子大学准教授、米ジョンズ・ホップキンス大学客員スカラ、中国人民大学招聘教授等を経て現職。『トランプ大統領とアメリカ議会』『グローバル人材になれる女性(ひと)のシンプルな習慣』『トランプ大統領はどんな人?』等多数。

しませんが、上述したように、ミニアーラ世代の民主党支持率の高さをはじめ、人口・人種の比率や推移、若い世代や女性、ラル派が大量に当選したことで、政党内統治が困難になっている側面もあります。だ

からこそ、両政党ともに良心的な候補者を揃えて政党内改革をしていく必要がありました」と、中林教授は指摘しました。

講座終了後は、多くの参加者から質問が相次ぎ、日本人にとってかかわりの深いアメリカ政局への関心の高さが表れた会場は、熱気を帯びたまま幕を閉じました。

## 子どもの生きる力を伸ばす「哲学的思考」

哲学への理解が世界や物事を明るく見るきっかけに

冒頭で、何事にも「なぜ?」という探究心を持つ子どもたちの思考は、哲学的であり、それゆえすぐれた哲学的思考は子どもたちにとつてもとても役に立つと語る苦野先生。その考えに至ったきっかけは、自身の子ども時代に心を病んだ辛い過去と、やがて哲学に出会い、目の前の霧が晴れるよ

うな気づきを経験したことにあるといいます。後に恩師となる哲学者・竹田青嗣先生(早稲田大学名誉教授)の『人間的自由の条件』を

読んだ後、近代社会の最も重要な原理である「人間的自由の条件」には、『物事を対照化人生を変える1冊になつたと語ります。

ばかりする論理は、結局は何も生み出せない』、『ということ書かれており、そこに深く共感するものがありました。たとえば、

『どんな社会を作るか?』というアイデアに

対し、「それは間違っている」といった論法だけで返してしまうと、我々は対話も考えることの希望も失います。竹田先生はそう

したポストモダンの論法に巻き込まれないような非常に原理的な思考を打ち出し、次なる社会のビジョンを示していくことに胸を打たれました。」

頑なだった心が哲学で溶かされ、

本格的に哲学の道へ

子どもの頃から孤独を抱え、「誰も理解してくれない」「理解されてたまるか」という思いを抱いていましたが、その奥底には、「本当は理解して欲しい」「愛して欲しい」という思いがあり、その欲望から反動的に「人類愛」というビジョンに行き着いたと、當時を振り返る苦野先生。

思想家や哲学者は、誰もが人類愛に目覚めた人が表現していると本気で考えていたのですが、そうではありませんでした(笑)

哲学とは、まずは自分をことと見つめながら、『自己了解』を深め、また『自己吟味』が必要な作業だということを知りながら、これまでの偏った考え方を溶けていくことを美感した苦野先生。

早稲田大学に進学した苦野先生ですが、人生を変えた一冊の著者である竹田氏が早稲田で教鞭をとることに。竹田氏の弟子としてさまざまな教えを得ることになった苦野先生。人類愛を世の真理とするのではなく、どうすれば多様で異質な人たちの中で、お互いが認め合えるような社会を作れるかということに考えがシフトしていくたそです。

### 子どものための「哲学対話」のすすめ

子どもとの哲学対話で大事なのは、「ここまでいけば共通了解が得られる」という経験を子どもの頃からたくさん積むことだと語り、各自の持論を展開し、発言したまま完結しがちな教育系のシンポジウムの例を引き合いに、対話する上での「共通了解」の大切さについて紹介します。

子どもの頃から孤独を抱え、「誰も理解してくれない」「理解されてたまるか」といふ

う大事なのは、どの次元まで「共通了解」が得られるかということです。もちろん、絶対の真理はありませんが、ここまでならみんなが納得できるというところまで対話する

ことは可能です。子どもたちの間でもそれは可能です。たとえば、「友情とは何か?」と喜びを語る苦野先生の言葉は、ひとつ

おし、「自己了解」を深め、また「自己吟味」が必要な作業だということを知りながら、これまでの偏った考え方を溶けていくことを美感した苦野先生。

身をもつて哲学が人生に与える気づきと喜びを語る苦野先生の言葉は、ひとつ

とつ重みと説得力がありました。

■ 苦野 一徳氏



熊本大学准教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程(教育学)。哲学者・教育学者。著書に「『自由』はいかに可能か(NHK出版)」、「はじめての哲学的思考」(筑摩書房)、「どのようないい」(講談社)、「教育の力」(講談社)などがある。

た方がいいですが。よく、対話をするだけして、何の共通了解にもたどり着かず、「でも話し合えたことに意味がある、なんて言つて終わる対話の会がありますが、それだと、どんなに対話を重ねても結局は何の解決も得られないものなのだと、対話への希望を失つてしまうでしょう。」

# 15周年記念行事開催報告&新入会のご案内

日頃受講生の皆様にはさまざまな分野での学習に励みつつ、講友との語らいに人生の新たな楽しみをご経験されているのではなかろうかと拝察いたします。頭書の件につき、以下の通りご報告とご案内をさせていただきます。

1. オープンカレッジ修了生の会である「稲修会」は昨年創立15周年を迎えましたので、今後のさらなる発展への起点とすべく、「特別記念行事」を開催いたしました。

**日時／会場**：2018年5月26日(土) 於・早大構内／大隈会館2F  
**プログラム**：年次会員総会(13:30～14:00)記念祝賀懇親会(14:30～16:30)  
**参 加 者**：計35名(エクステンションセンター所長他ご臨席)

当日は好天に恵まれ、和やかな楽しいひと時を迎えることができ、大変有意義な記念の会となりました。

## 2. 稲修会入会へのご案内

オープンカレッジ修了生の会「稲修会」はともに研鑽を重ねた友人と語らいの場を持ちたいと思う修了生同士が集い、2003年5月に発足しました。2019年度も様々な行事を予定しておりますので、修了生の方は是非参画いただき、みなで盛り上げていきましょう。

**会の目的**：会員相互の親睦を図り、また会員と早稲田大学エクステンションセンターとの関係を密にし、その活動に協力するとともに、会員の生涯学習の充実に寄与する。

**入会資格**：オープンカレッジ修了証を授与された方

**入会 費**：3千円(2019年4月以降)

入会を希望される方は、案内書をエクステンションセンター各校事務所に用意しておりますので、お申し出ください。

稻修会会長  
藤野豊  
オープンカレッジ修了生の会



# Information

## 悪天候による休講時は……

雪、台風等の悪天候による全学休講は個別連絡をいたしません。

「早稲田大学緊急用お知らせサイト」で確認してください。



早稲田大学緊急用  
お知らせサイト  
[https://blogs.yahoo.co.jp/waseda\\_public](https://blogs.yahoo.co.jp/waseda_public)

PCやスマートフォンに登録をお願いいたします。

## 急な休講が発生した場合は……

携帯電話のショートメッセージサービス(SMS)を利用して休講のご連絡をいたします。迅速に休講情報をお受け取りできますので、ご登録がお済でない方は、以下の方法にてぜひご登録ください。

### 登録方法(会員の方)

- ①当センターホームページからMyPageにログイン
- ②「会員情報変更」をクリック
- ③画面下部の携帯番号欄に電話番号を入力
- ④最下部の「更新する」ボタンをクリック

※各校事務所窓口でも登録可能です。

※携帯番号をご登録されていない方には、これまで通りお電話にてご連絡させていただきます。

## 会員先行申込の場合は……

会員先行申込の開始後、当センターホームページトップ画面内にピンク色のバナーが表示されます。バナー内の青い文字「こちらからログイン後」をクリックしてください。



「こちらからログイン後」をクリック

「早稲田の杜」は当センターホームページでもご覧いただけます。[www.wuext.waseda.jp](http://www.wuext.waseda.jp)

早大 エクステンション

検索



EXT

早稲田大学  
エクステンションセンター

■発 行

早稲田大学エクステンションセンター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

TEL:03-3208-2248 FAX:03-3205-0559 e-mail: [wuext@list.waseda.jp](mailto:wuext@list.waseda.jp)